

# ウニ駆除によるホンダワラ類の回復試験

漁場環境部 研究専門員 猪狩 忠光

## 【目的】

磯焼け域においてウニを駆除すると、小型藻類が発生するといわれている。この手法を活用し、発生した小型藻類をおとりにして、周辺に現存するものの、植食性魚類の食害により伸長できないヒジキ等ホンダワラ類を伸長させ、藻場を回復させることを目指した。

## 【研究内容】



試験地位置

月に1回(平成28年度の水成川は2ヶ月に1回), ウニ駆除を実施した。水成川は、幅2mで海面から海底までの約15mの区画を2カ所、羽島は、岩盤の約2/3を海面から海底までを範囲とした。(下イメージ図参照) 切れ目

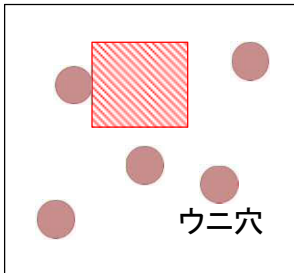


南九州市穎娃町水成川  
平成27年4月～

いちき串木野市羽島  
平成28年7月～

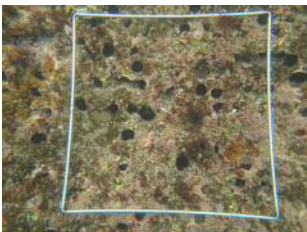
## 【結果及び考察】

**水成川:** 中央付近のウニ穴に接してウニ穴を含まない10cm×10cmの坪刈りを実施

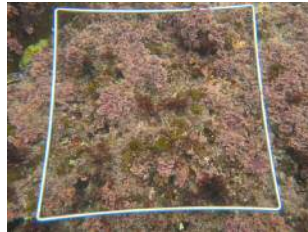


結果

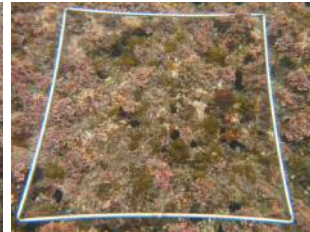
2016/3/31	南駆除区		南非駆除		北駆除区		北非駆除	
	湿重量g	割合%	湿重量g	割合%	湿重量g	割合%	湿重量g	割合%
アオサ類	0.15	0.6	0.15	1.2	0.04	0.2	0.03	0.4
フクロノリ	3.46	13.9	3.04	24.7	12.24	70.2	0.72	10.1
カゴメノリ	10.31	41.3	0.29	2.3	0.89	5.1	0.38	5.2
オバクサ	1.87	7.5	1.55	12.6	1.48	8.5		0.0
コブソ	1.59	6.4		0.0	0.01	0.1	2.46	34.2
アマジグサ類			0.15	1.2				
石灰藻	7.61	30.4	6.35	51.6	2.78	15.9	3.16	44.0
その他紅藻	0	0	0.78	6.3	0.01	0.0	0.44	6.1
合計	25.0	100.0	12.3	100.0	17.4	100.0	7.2	100.0



駆除前(H27.4.30)



平成28.3.31 左: 駆除, 右: 非駆除



潮間帯のヒジキは伸長しなかった

目視的には植生に大きな差は見られなかったが、駆除・非駆除でフクロノリ・カゴメノリに差が見られた。潮間帯(駆除域の上部)のヒジキは伸長しなかった。

→全体的に海藻量が少なかった? フクロノリ・カゴメノリは植食性魚類の餌対象とはならない?

**羽島:** 12月, ウニ駆除域には小型藻類が生育している。**副産物:** 駆除域のウニ穴(径約4cm)に稚イセエビが生息



駆除前(H28.7.5)



ウニ駆除域(H28.12.20)



イセエビのプエルルス幼生は海藻が豊富な場所に着底する  
→ウニ駆除により小型藻類が発生し着底促進  
→ウニ穴が稚エビの格好の住みかを提供

ウニ駆除ですぐに大型海藻を回復させるのは難しいが、小型海藻でも沿岸漁業資源に好影響をもたらしている。



潮間帯域のイソモク・ヒジキ(H28.12.20)